

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みんなで話し合い、理念を確認し合って共有している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員ミーティングで理念にふれ、日々の支援につながられるよう振り返っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の面会時や、2ヶ月に1回の運営推進会議等で、理念にふれるようにしている。また、ホーム内に理念を掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物・ホーム周辺の草取り等の際、近所の人達と挨拶を交わしたり、立ち話をしたりしている。時折、野菜を頂いたり、お茶飲みに出かけていたりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校の行事の際は、招待して頂いたり、運動会を見に行ったりしている。又、部落の草とり等にも参加している。	○ 地域の一員として、公民館費等を納入し地域の作業等に参加、回覧板をまわすなど、近隣との関係を深める為取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市で行っている月1回の地域ケア会議に参加しそのなかで取り組んでいる、認知症サポーター養成講座の研修に協力できるようにしている。又、社協で行っている、「地域で育む福祉教育推進モデル事業」に参加し地域に貢献できるよう講座や話し合いに参加している。	○	地域でキャラバンメイト養成研修が開催されるときには協力したいと思っている。又、社協の事業には参加予定が入っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。評価結果後の改善策は、ミーティング等で話し合いホームの目標に掲げて、実践につなげるよう努力している。	○	改善策は、職員個人の目標にも上げてそれぞれ半年後の法人での評価に反映するようになっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の近況報告やホーム周辺の地域のこと、災害時等のアドバイスなど、地域の中でのホームのあり方など、いろいろな意見を頂き検討事項が徐々に改善されている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催される月1回の介護保険事業者連絡会や地域ケア会議に参加し、他事業所や推進会議の参加者以外の職員との情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。	○	これからも、参加していく方向である。今までは所長のみが参加していたが他職員の参加も促したいと思っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用されている方が1名おり、管理者だけでなく折りにふれ、他職員にも対応してもらいながら、利用者の支援にかかわっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体施設等で開催される研修会や委員会活動に参加し、職員全員で意識の統一、虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の説明時に、十分に時間をかけて、理解して頂けるように努めている。又、利用料金や起こりうるリスク・重度化や看取りについての対応、医療連携体制については詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言動、態度から意見や不満を察知できるよう対応している。申し送りノート、話し合いにより情報を共有し、対応策を考え、運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、健康状態、ホームでの様子を報告している。年4回のホーム便りにて、入居者の暮らしぶりを報告している。金銭管理は家族面会時に、おこづかい帳を見て頂き、サインをもらい、レシートを渡している。</p>	<p>○ 1ヶ月に一度、家族にお便りを発行する予定である。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時には、気軽に話が出来るような環境に努めており、意見があった場合には早急に対応している。玄関には投書箱を設置している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議により、意見を取り入れている。人事制度が始まり、職員の意見を聞く機会が充実されている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>パート職員が2名勤務しており、時間をずらすことも出来るため、入居者の状態の変化、要望に柔軟な対応が出来るようになっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が対応することで、入居者も安心すると考えている。法人内の定期異動により止むを得ない場合もある。新しい職員が入った場合には、紹介し、入居者が安心できるような環境作りに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上、経験数に応じ、法人内外の研修にできる限り参加するようにしている。10月からは人事考課が実施されるため、個人での目標を立て、取り組んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県のGH協会に入会している。研修会、勉強会、定例会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間を確保している。パート職員の配置により、気持ちに余裕がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働けるために、個人の目標を設定し、達成された時には、昇給、賞与の支給額に反映される仕組みになっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際には、実態調査を行い、出来る限り、生活歴を把握するように努めている。職員全員で見に行くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実態調査の実施、ホーム見学に来て頂いた際には、ゆっくり話を聞き、安心感を与えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明した上で、ご本人の状況などから必要と思われるサービスについては、お話をさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂いたり、又職員がご本人宅へ伺い、職員と馴染みの関係を築きながら、入居に結びつけるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	四季の行事や慣わし事は、入居者の方々から教えて頂いたり、どんな小さなことでも、共に喜びや悲しみを分かち合い、共有することの大切さを意識しているようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ホームでの様子を伝えるだけでなく、生活暦等を改めて聞き、入居者の方々への思いを共有できるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に、状態報告を行い、家族との協力関係を築けるように努めている。	○	なかなか面会に来れない家族や、遠方の家族に月1回、文書で送るようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで故郷や馴染みの場所へ出掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の関係性について情報を共有し、入居者間関係悪化やトラブル防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	母体施設の行事等に参加し、一緒に話をしたりし過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とのコミュニケーションの中から、希望や意向などを把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の情報収集は行っているが、不足な部分もある。又入居後、新たに収集していない為、もう少し生活歴を知る工夫をしていきたい。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できることを決め付けず、試してみるよう声をかけたり、場を提供したりしている。その情報を記録に残し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今できることを、少しでも継続してできるようプランへ入れている。又ご家族の希望も反映できるよう希望の確認を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごとに、介護計画の経過・評価を行っている。状況変化があった場合、プラン変更し家族より同意を得ている。	○	訪問看護ステーションの兼務看護師から医療的なことのアドバイスを受けながら、一緒にカンファレンスを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の声かけ、申し送りノートや生活記録への記載をし、状態把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院介助を行っている。毎日の買い物やドライブ・散歩などをして、気分転換を図り、個々の生きがいを見つけ、住み慣れた所での生活ができるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月一回の移動図書の利用。特定の入居者だが担当の民生委員が月一回のペースで面会に来て頂いている。	○	入居者が住み慣れた地域で暮らせるよう、警察や消防との連携を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月一回の移動図書の利用。	○	訪問理容をして頂いている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに情報交換を活発にしていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を継続している。家族の付き添いの協力依頼をしているがなかなかできず、職員が対応している。家族が付き添いの場合は、口答や文書にして主治医に話して頂いている。	○	兼務看護師が半年に一度、一緒に主治医の指示を聞いてくれる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	個人票のファイルの作成。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケアの研修会に参加。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後に向けて、ホームの看取り委員より勉強会での情報を提供して頂き、チームで支援し、安心して終末期を迎えられるように対応していきたい。又、今後ホーム独自の指針を作成する。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、声掛けを工夫している。個人情報保護規定があり、共有している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に希望を伺い、出来るだけ意向を尊重するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、食事拒否のある入居者へは時間をずらす等、一人ひとりに合わせている。また、常に希望を伺い外出希望のある入居者へは、買い物や散歩を呼びかけるなど柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の方に行きつけの美容室に連れて行っていただけるよう話しているが、家族の付き添いが困難な場合が多く、現在は美容師の方に来ていただきホーム内で散髪している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューへは入居者の好きなものや旬のものを多く取り入れるようにしている。家族や近所の方から頂いた食材も活用し、提供している。また、調理、食事、片付けは入居者の体調にあわせほぼ毎日一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	常に希望を伺っている。食品の好き嫌いが多く入居者については、嗜好品を把握し、嫌いなものはメニューから外し代替の物を提供している。煙草については、職員が預かり、本人から希望を伺い一服の時間を設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努めている。オムツを着用している入居者へもトイレ誘導を行い、自然な排泄が出来るよう促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間は決めていないが、汚染時などはその都度入浴していただいている。希望を伺い、体調にも配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調を観察し、疲れや異変が見られる入居者へは休息してもらうよう促している。夜間良眠するため、日中活動的に過ごせるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なことを生かし、役割活動の場を提供しているが足りていない。出来ることはしていただけるよう環境を整え、行った後には感謝の気持ちを伝えるようにしている。	○	一人ひとりと向き合い、日中何もせずに過ごしている方へも役割活動の場を提供出来るようケアプランに反映させたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や社会福祉協議会の協力を得て、自分で管理している方もいる。また、出来る人には買い物時に財布を渡し、支払いをしていただけるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎食後声掛けし、歯磨きやうがいを徹底している。必ず週1回は入居者より義歯を預かり、洗浄剤を用いて義歯洗浄を行っている。うがい薬(イソジンガーグルを薄めたもの)を用意し、帰宅後にうがいをする様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたい場所の希望があれば、職員の勤務を調整し距離によっては弁当か外食かの希望も取り入れている。	○	体調不良の無い限り全員での外出が多くイベント的な色が濃い。個々の思いに沿った墓参りや、懐かしい場所への外出支援も実現出来る様に方策を職員同士で検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話している。	○	年賀状や手紙を書くことを促す支援を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人、知人等、気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間は定めておらず好きなスペースで話せる様に配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。職員全員、拘束を行わないとの意識は徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を確保する為、施錠している場所がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、行動が把握しやすい場所で記録を行い安全に配慮している。夜間は三十分置きの巡視と、居室よりトイレに来た時の見守りを行い、状態の把握を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除く様な事は無く利用者の状況変化により、見守りしたり、声掛けしたりケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。日々の申し送りを活用し利用者の状態を把握し予防意識の共有を行っている。家族への報告も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が年1回消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を行っている。何かあった場合は看護師へ連絡し指示を仰いでいる。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で働きかけている。年2回消防署の協力を得て訓練を行い、地域住民の参加もある。	○ 夜間想定訓練も検討したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、面会時に近況報告や状態報告をし、起こり得るリスクを説明している。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	連絡帳や申し送り表にて共有している。日々の状態に変化がないか観察し、異変を発見したら状況に応じ、訪問看護ステーション看護師に連絡し、指示を仰ぎ早期対応に努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備はこちらで行い、服用の確認・チェックを行っている。全職員が薬の内容(目的・用法・用量)を把握できるように努めている。服薬事はチェック表を使用して服薬介助にて誤薬を防いでいる。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、水分摂取量の低下を防止している。出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、定期的なトイレ誘導を行っており、必要に応じ腹部マッサージをし排便を促している。	○ 散歩や運動などをもっと取り入れ、身体を動かす機会を増やしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けし、歯磨きやうがいを徹底している。必ず週1回は入居者より義歯を預かり、洗浄剤を用いて義歯洗浄を行っている。うがい薬(イソジンガーグルを薄めたもの)を用意し、帰宅後にうがいをする様にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士より、栄養指導していただきバランスの良い食事の提供や専門的な観点からのチェック・アドバイスももらっている。食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し摂取量を把握している。その人に応じてトロミ剤を使用したりエンシュアで栄養を補給している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルスについての勉強会を行っている。	○	感染委員による勉強会を開催している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は前日に購入し、刺身については当日購入している。肉を切る際は、牛乳パックを使用している。調理器具は毎食後消毒し、布巾やまな板は漂白している。キッチンスペースの取っ手・ガス台・流し台の掃除を毎日行い清潔を保持、衛生管理に努めている。食材の残りを点検し、なるべく早期に使う様献立を工夫している。	○	食中毒予防のポスターを台所の目に見える場所に貼り、食中毒についての意識を高められる様にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植えたり、玄関に芳香剤を使用したりと訪れる方々に気持ち良く出入りしていただけるようにしている。5月にはこいのぼりを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の行事の装飾を作ったり、旬のものを取り入れた献立の工夫により、季節感を実感できる様にしている。入浴時は入浴剤を使用し、リラックスできる空間を作れる様配慮している。	○	まだまだ殺風景のため、入居者に合わせた飾りをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士がいつでも話ができて楽しんで過ごせる様に場所への誘導を行っている。なじみの関係が苦手な人は、職員が間に入り一緒にコミュニケーションが図れる様に配慮している。	○	リビングではない、落ち着いて話せる空間を確保したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者になじみの物を運んでいただける様、その旨を家族に説明するも新しく準備した方もいる。入居者の中には、遺影を置き毎日手を合わせる習慣がある人もおり、安心してその人らしく過ごせる居室作りに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温・温度計をチェックし、室温・湿度が保てる様に配慮している。必要時、加湿を行っている。掃除の際や、天気に応じ換気をその都度行っており、過ごしやすい空間を作る様配慮している。トイレは、換気扇・消臭剤を設置し悪臭が出ない様工夫している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スムーズに移動が出来るように手すりの設置。調理台が合わない方には、リビングのテーブルをて提供するなどしている。転倒の危険がある方にはフローリングの居室に畳を敷いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様が自分の居室がわかるように、近所で頂いた木材を利用して表札を掲示したり、混乱時にはその原因に合わせた対応方法を検討し環境を整えるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム前の庭の水遣りや、今年始めたプランターの野菜の水遣りや収穫を楽しんでいる。外の物干し竿に洗濯物を干したり、活動できる範囲を広げている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでい	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみ	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせて	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援に	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていること	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

(事業所名 グループホーム綾姫)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつな		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足している		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム綾姫ではお昼寝に1～2名程度しか行かず、ほとんどの方が職員のいるリビングで過ごしています。リビングが心地いい場所となっていることが職員の中ではうれしく思っているところです。今年からは、近所へお茶飲みに出かける方も出てきて地域への活動が活発になってきているように思えます。又、初めての試みで、花火大会を見に行ったりしました。医療連携体制がはじまって、訪問看護の職員ともミーティングを月1回を行い、病院受診時・薬の服薬時のアドバイス、時には感染症等の講習会を行い、とてもよい連携が取れています。まだまだ、これからの施設ですので、地域でのいろんなことに参加して地域に根づいた施設になるよう日々努力をしている所です。

(事業所名 グループホーム綾姫)